

政宗のこの木製の像は、死後 17 年たった 1652 年につくられた。もともと瑞巖寺の本堂にある祭壇に設置されており、宮城県の文化財に指定されている。像は朝鮮出兵の際に、伊達政宗が家臣団を率いた姿を描いたもので、27 歳頃のものだと言われている。政宗は幼少期の病がもとで右目を失っていた。政宗は彼自身の意思により 2 つの目があるよう彫像を作るよう依頼したと言われているが、彫刻家は彫像の右目をやや狭く作ることによって彼の本来の姿を暗示している。